

学位論文審査結果の要旨

学位申請者 氏名	NGUYEN THI KIM QUYEN	
審査委員	主査	鹿児島大学水産学部 教授 佐野雅昭
	副査	鹿児島大学水産学部 准教授 久賀みず保
	副査	鹿児島大学水産学部 教授 安樂和彦
	副査	鹿児島大学 農学部 准教授 李 哉玄
	副査	鹿児島大学水産学部 准教授 鳥居享司
審査協力者	印	
題目	<p>The Current Situation and Issues with the Shrimp Farming Industry in Vietnam : Management Improvement of the Shrimp Farming in the Mekong Delta (ベトナムにおけるエビ養殖産業の経営改善に関する研究)</p>	
<p>エビ養殖業、中でもバナメイエビ (<i>Litopenaus vannamei</i>) 養殖業は東南アジアで広く発展しており、地域の経済を支える産業として非常に重要な地位にある。また養殖エビは日本をはじめとする先進諸国が主要な消費地となっている高価な国際商品であり、貴重な外貨獲得型輸出産業としてその発展が期待されている。しかし、バナメイエビ養殖が急速に発展する現在、魚病の発生や養殖生産物の品質低下、薬品残留などのトラブルも多発するようになっており、大きな問題となっている。そこで本研究は、バナメイエビ養殖の主産地であるベトナムのメコンデルタ地域を対象としてバナメイエビ養殖の実態を明らかにし、次いでこうした事態を改善するための生産管理規格導入の実態やその効果および可能性を明らかにした。</p> <p>本研究の特徴は以下の3点である。まず、本研究は東南アジアの水産業で最大の生産額を誇る品目であるバナメイエビ養殖業を対象とし、その発展を阻害する課題を解決しようとしたものである。バナメイエビ養殖業はベトナムのみならず、他の東南アジア諸国においても同様に重要な産業であり、発展の課題を共有している。本研究の内容は東南アジア全体のエビ養殖業に対して貴重な知見をもたらすものであり、国際社会に大きく貢献するものである。次いで、養殖生産の課題を技術ごとに分解しそれぞれの解決策を個別に検討するのではなく、全体的な生産管理規格の導入による工程管理の適正化によって解決しようとしている点が第2の特徴である。ISOやGAPに代表される生産管理規格は工業や農業など他産業では今や世界標準となりつつあるが、水産養殖業界ではほとんど導入が進んでいない。しかしグローバル化が進むアイテムにおいてはその導入が急がれるところであり、その点で本研究は先進的かつ実践的だと言える。最後に、メコンデルタという主産地において綿密かつ豊富な実</p>		

態調査を行い、現実の理解を深めていることが第3の特徴である。100件を超える多数の零細な養殖経営体や協同組合、地方行政などから得たオリジナルかつ豊富な一次資料に基づく調査結果を基に分析を行っているが、こうした情報自体入手することが困難であり、大変に貴重なデータに基づく研究となっている。またローカルで具体的な事実に基づきながらも、グローバル市場との連関を常に意識しており、両者の連結を実現しようとしたユニークな研究となっている。

こうした独創的な視点に基づく豊富な実態調査により、本研究はまず以下の2点について詳細に明らかにしている。第1に、ベトナム政府による生産管理規格である VietGAP の運用実態とその効果および問題点を、メコンデルタ地域における零細養殖経営体に対する実態調査により明らかにした。VietGap を取り入れたグループと取り入れていないグループの両方にアンケート調査を行い、魚病発生状況や生産管理方式の違い等について詳しく比較している。また VietGap を取り入れる効果や問題点についても明らかにしている。第2に、国際的な環境認証制度・管理規格認証制度である ASC (Aquaculture Stewardship Council : 水産養殖管理協議会) 認証の運用実態とその効果を、実際に導入を実現した協同組合や関連機関などでの実態分析や国際市場での価格比較などを行うことにより明らかにした。

以上の実態調査とその分析結果から導かれる本研究の最終的結果は次の4点である。(1) ベトナムのパナメイエビ養殖産業において、VietGAP に基づいて養殖を行っているケースでは生産管理や魚病対策が適切に行われており魚病の発生が少なく、その結果養殖成績が良好であること。同時に生産物の品質管理も適切に行われており、輸出先国からのクレーム発生件数が少ないこと。(2) しかし品質差別化に基づく国際市場での価格上昇までは結びついておらず、具体的な経営メリットの創出に至っていないこと。(3) 養殖生産管理の改善による経営的メリットは、先進国市場で信頼度の高い国際的な管理規格制度である ASC 認証の導入によって初めて顕在化するため、これが最終的なゴールとなるべきこと。(4) 国際的な認証獲得は養殖業者個人では困難であるが、零細な養殖業者が協同組合を構成し、WWF (世界自然保護基金) や販売先である加工・輸出業者などの支援を得れば、大きなコストをかけずに可能であること。以上である。またこれらの結果より、メコンデルタ地区のパナメイエビ養殖経営を改善するためには、まず協同組合を設立して組織化を図り、次いで協同組合をベースとして VietGAP を導入し、その経験を土台にして最終的に ASC の導入を目指す道筋が望ましく、現実性も高いことを提言した。

これまで東南アジアのエビ養殖業振興に関する研究は技術的分野あるいは輸出市場分析が中心であった。しかし本研究は、現代的な国際市場の要請に立脚し、様々な技術を融合したエビ養殖生産体系全体の管理規格導入の重要性や、それに対して市場からもたらされる養殖経営メリットの存在を初めて明らかにしている点が独創的かつ実践的である。また今後、国際市場に水産物を輸出する際に不可欠となる生産管理規格の内容やその取得への道筋を論理的に明らかにしており、パナメイエビ養殖業に留まらず水産資源の輸出を生かした経済発展を試みる全ての国や地域にとって普遍的な価値を有するものとなっている。この点で、国際的に評価される実践的な研究である。

こうした理由から、本論文の学術的内容は高く評価されるものであり、同時に幅広い社会性、国際性を有しているものと判断する。よって博士 (水産学) 学位論文としての価値を十分に満たしていると考えられる。